



知って安心

# あなたのくすりと健康

聞いて安心



第96号

- 頭部の外傷と抗血栓薬…相模台病院 薬剤部 八城 学
- 妊娠・授乳中のくすりのウソ？ ホント？…日本医科大学武蔵小杉病院 薬剤部 海老井 佳織
- 『節薬』してみませんか…IMS グループ 横浜旭中央総合病院 薬剤部 澤木 奈実子

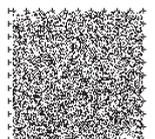


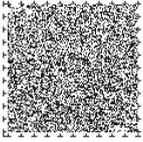
手術時に使用する薬品（麻酔の導入、鎮静、無痛を目的とした麻薬）を麻酔科医と相互に確認し受け渡しを行っているところ

## <表紙写真> くすり Get the Answers かながわ 推進委員会 「手術室薬剤師」 一般財団法人神奈川県警友会けいゆう病院

手術室では多くの規制管理薬品（麻薬、向精神薬、筋弛緩薬、麻酔薬等）が扱われており、また緊急性を伴う手術室では手術室薬剤師によりこれら薬品が適正に管理されています。手術前には麻酔科医、看護師、手術室薬剤師によるカンファレンスにて情報共有を行い、より安全に手術が実施できる体制をつくっています。

私たちは、一般市民に対して医薬品や健康に関する正しい知識の普及と啓発を目的として小冊子を発行しています。小冊子には、音声コードが印刷されており、音声読みあげアプリ「Uni-Voice」と活字文書読みあげ装置の両方で使用できます。ご活用いただければ幸いです。





## 頭部の外傷と抗血栓薬

転倒などで軽く頭を打っただけでも重症になることがあります。頭を打った直後は問題なく会話ができていても、時間が経つと急速に意識障害が出て、症状が悪くなりやすいと言われていいます。特に下記のような抗血栓薬（血液をサラサラにする薬）を飲んでいる方が頭を打った場合、前述した症状が発現する可能性が大きくなります。

### 注意が必要な代表的な抗血栓薬

ワーファリン（ワルファリン）、プラザキサ、イグザレルト、エリキュース、リクシアナ、バイアスピリン（アスピリン）、プレタール（シロスタゾール）、アンプラグ（サルボグレラート）、パナルジン（チクロピジン）、プラビックス（クロピドグレル）、エフィエント、エパデール（イコサペント酸エチル）など

頭を打った場合、短時間でも意識を失ったり、家族がいつもと様子が違うと感じた時は、軽傷と思っても医療機関を受診することが重要です。

日本脳神経外科学会、日本救急医学会、日本脳神経外傷学会、日本脳卒中学会、日本循環器学会、日本脳卒中協会では転倒・転落による高齢者の頭部外傷（特に抗血栓薬を内服している方）の危険性を患者さんに理解してもらうとともに、適切な対応について医療関係者への啓発活動を「Think FAST」campaign」と称して行っています。この活動では抗血栓薬を飲んでいる患者さんに知ってほしいこととして、以下の点を挙げています。

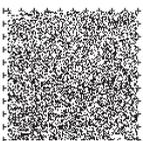
転倒時の出血の危険性について知ると、抗血栓薬を飲むことが怖くなるかもしれませんが、脳に血の固まりが詰まる脳梗塞の予防などのため、抗血栓薬は飲む必要があります。

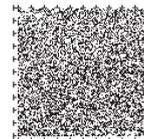
また、薬の服用を勝手に中止すると、脳梗塞になる危険性が高くなるので、自己判断で服用を中止しないことも大切です。

### 抗血栓薬を飲んでいる患者さんに知ってほしいこと

- ① 抗血栓薬が出血し易く注意が必要であることを知って飲み続ける
- ② 頭を打った場合等、本人や家族が少しでもおかしいと思ったら、医療機関を受診する
- ③ 抗血栓薬の中には中和薬が存在する薬があるので、自分が飲んでいる薬の名前を自分自身や家族が覚えておく  
薬品名を覚えることが難しい場合は、外出時にお薬手帳を携帯するか、服用している薬品名が記載されているカードなどを財布に入れておく

相模台病院 薬剤部 八城 学





## 妊娠・授乳中のくすりのウソ？ ホント？

体調が悪くなる時は、誰にもあるものです。特に、妊娠や授乳をされているお母さんは、くすりをのむことで赤ちゃんに影響がないか、心配になることが少なからずあるのではないのでしょうか。

そこで、今回は「妊娠・授乳中のくすりのウソ？ ホント？」についてお話をします。

### <妊娠中>

#### ◇妊娠中にくすりの影響が出ない時期があるのはホント？

**ホント** 妊娠3週6日頃までは「全か無かの法則が働く時期」とされており、妊娠が継続している場合は、くすりの影響を受けなかったものと考えられます。ごく少数のくすりを除き、この法則にあてはまります。ただし、妊娠4週0日頃からは重要な器官が形成され始める時期なので、注意が必要です。



#### ◇くすりをのむことで、赤ちゃんが奇形になる確率が高いですね？

**ウソ** 実はそんなに高くはありません。まず、くすりの服用に関係なく、妊婦全体の奇形の自然発生率は、3～5%程度あるとされています。その中で、くすりが原因と言われているのは1%程度とされており、大半は原因不明とされています。また、現在はくすりをのまずに症状が悪いままよりもくすりをのみ、お母さんが早く元気になった方が赤ちゃんの成長に良いとされています。

### <授乳中>

#### ◇くすりの説明書やインターネットの薬情報では、「授乳は控えること」と書かれています。くすりをのんでいるときは授乳は絶対にしてはいけませんよね？

**ウソ** 大半のくすりは母乳中への移行割合が低く、授乳の継続は可能なものが多いとされています。ただ、倫理的に人での臨床試験（効果や安全性を確かめる試験）はできないので説明書などには「授乳を控えること」と記載せざるを得ない状況があります。また、くすりをのむ前に搾乳する等、授乳を継続する様々な方法がありますので、ぜひ一度薬剤師に相談してみてください。

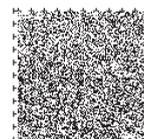
相談窓口を設けている病院も増えてきているので、ひとりで悩まずにまずは専門の医師、薬剤師に相談してみてもいいかもしれません。

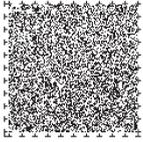
厚生労働省事業「妊娠と薬情報センター」では、妊娠中や授乳中の方を対象に、おくすり相談を受け付けています。詳しくは下記ホームページをご参照ください。

国立成育医療研究センター「妊娠と薬情報センター」  
<https://www.ncchd.go.jp/kusuri/lactation/index.html>



日本医科大学武蔵小杉病院 薬剤部 海老井 佳織





## 『節薬』してみませんか

お手元に、残っている薬はありませんか？

具合が良くなって飲むのを止めたもの、薬が変更になって余ってしまったもの、非常時に備えて多めにもらっておいたもの…理由はいろいろあると思います。処方された薬は全て飲み切っていただくのが理想的ですが、うっかり飲み忘れてしまうこともあるかもしれません。薬にも使用期限があります。使用期限を過ぎてしまったものは、有効な成分が変質してしまい、体に悪影響を及ぼす可能性もありますので、使うことができません。

残っている薬がたくさんあるような場合は、薬剤師に相談してみてください。実際の薬を病院や薬局に持って行き、残っている数を確認してもらいましょう。同じ薬を続ける場合には、無駄が出ないように、新たに処方される薬の数量を減らすことができます。毎日飲んでいる薬で飲み忘れが続く場合には、飲み忘れを少なくするための工夫が大切です。薬剤師から、飲みやすい形や、飲む回数が少なくていい薬への変更を提案することもできます。

飲み忘れについては医師にも伝えておくようにしましょう。予想していたよりも薬の効き目が弱い場合に、他の薬が追加になってしまうことを防ぐことができます。

薬も大切な資源です。限りある医療資源を有効に使うために、薬剤師と一緒に『節薬』していきましょう。

※病院や調剤薬局では、不要になった薬を引き取って払い戻しすることはできませんので、ご了承ください。

IMS (イムス) グループ 横浜旭中央総合病院 澤木 奈実子



《編集後記》活躍する薬剤師を紹介しています。今後も様々な事業を企画してまいります。

《発行》公益社団法人 神奈川県病院薬剤師会 GTA 委員会

〒235-0007 横浜市磯子区西町14-11 神奈川県総合薬事保健センター 4階

ホームページ <https://www.kshp.jp/>

